



東希小だより 10月号

「咲こう 輝こう マーガレットのように」

..... 芸術の秋

校長 村上 雅基



9月も下旬頃から、過ごしやすい気候となってまいりました。今月、4年生は、愛川ふれあいの村宿泊体験学習、5年生は、日産自動車工場見学が予定通り実施されました。コロナ禍前では、当たり前のように実施していた行事ですが、2年間、宿泊行事やさまざまな行事が中止になり、今年度、徐々に通常の教育活動にもどり、4、5、6年全ての学年が宿泊行事に行くことが出来たこと、とても喜びを感じています。

また、9月22日には、文化庁巡回公演で演劇団「座」の公演を、4、5、6年生、5・6組の児童が体育館で鑑賞しました。朗読と劇のコラボ、生の和楽器演奏や照明による演出、プロの劇団の生の迫力ある公演に、児童たちは魅了されていました。

児童の感想を一部紹介します。

- 5・6組：キツネが全部まんじゅうを食べていたのが面白かったです。赤鬼さんがなくところが感動しました。りゅうの話は化け物に話しているのが怖そうでした。
- 4年生：私は劇団「座」を鑑賞して、面白かったり、おどろいたり、悲しくなったり、色々と感情を動かされました。劇を3つも見て楽しかったです。1番最初のきつねの話では、きつねのやさしさが見えました。2番目の赤おにの話では、青おにと赤おにの友情が感じられ、3番目のりゅうの話では、男の子の思いやりの心が表されていました。どれも心を動かされるような楽しい話でした。ありがとうございました。
- 5年生：私は演技を観て、女優をめざしているの、目標にしたいくなりました。びっくりする演技、泣く演技、泣き声、楽器、ナレーション、すべてがすばらしかったです。ちがうお話を観てみたいです。
- 6年生：左右でろう読の方々の読む速さ、声の強弱がすごくて、その声で心が動かされました。音楽演出家の方は演者の方に合わせて音を出していて、その場のふんいきや様子を感じとれました。演者の方の声の通り方、表情、動き、一つ一つがすごくて、見どころがたくさんで、「やってみたいな」と思いました。

さて、10月7日に終業式を行い、前期が終了します。

4月からの約6か月間、子ども達は学習や学級での生活、行事等を通じて成長してきました。そうした学習状況や学校生活の様子などを「あゆみ」でお知らせいたします。

これまでの努力の成果が表れているところもあるでしょうし、浮かんできた課題もあるでしょう。ご家庭でも話題にさせていただき、後期からの学習等にぜひ生かしてほしいと思います。

9月13日に「歌のつどいスタート集会」を行いました。歌のつどい実行委員会の子ども達が、とても立派に運営していました。「スタート集会」で話したことですが、発表当日だけをよくしようとするのではなく、発表に至るまでの、努力、協力こそが尊いと思っています。

子どもによっては、音楽が得意、不得意ということもあるでしょう。

そうした中で、互いに教え合い、協力し合いながら、学級や学年の友達同士の好ましい人間関係が育ってほしいと願っています。

その結果、歌声や演奏がそろわなくても、自分のもっている力を発揮し、満足感、成就感が心に満ちていれば、そしてみんなの絆が強くなれば、それが素敵な「東希のハーモニー」だと思います。